



広島・長崎から

2023 WORLD CONFERENCE AGAINST A&H BOMBS
原水爆禁止 2023 年世界大会

被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を—人類と地球の未来のために—

被爆の追体験をリアルにつかみ、 核兵器廃絶の実現を



核兵器廃絶を願う「原水爆禁止世界大会」(以後、世界大会は1955年8月に広島市で第1回目が、翌1956年に長崎市で開催され、以来毎年、世界の人々と連帯して世界大会が開催され、今や核兵器廃絶は世界の大きな流れに発展しています。

今年の世界大会は長崎開催でしたが、8月4日(金)に「国民平和大行進」終結集会、「ペナントピースアクション」、6日(日)にヒロシマデー集会が開催されました。

核抑止肯定への怒りを原動力に

終結集会で、東京から広島間91日行進された村上厚子さん(広島市東区在住)は、「行進の原動力は、広島市で開催されたG7広島サミットで核兵器禁止条約に一言も触れず、核抑止論肯定の岸田首相への怒りでした」と発言されました。



ペナント
ピースアクションの様子

自身の被爆体験を語り、核兵器廃絶を強く訴えるサロ節子さん



非人道的・核兵器 その廃絶を求めて:

7日(月)〜8日(火)の長崎大会には述べ7600人、広島自治労連から4名が参加。特別発言では慶応大名誉教授小林節さんが、倫理性をもつ人類が核兵器の非人道的性を発信し、政府に核兵器禁止条約批准を求めよう、

そのために来るべき総選挙の争点に核兵器廃絶を、と強調しました。

被爆者へ寄り添う 支援の手を

分科会では、日本被団協中央相談所の原玲子さん(ケースワーカー)が、被団協の2本柱「核兵器廃絶」と「国家補償としての被爆者援護法制定」は日本政府が二度と戦争をしないことを意味し、今なお求め続けていること、被爆者がこれまで生きてきた歴史はすべて異なり、一人一人への一般調査・医学調査・生活史調査を行うことがその人に寄り添い、人として生きていくうえで何が大事かを掴めると指摘しました。



ヒロシマデー集会にて 核兵器廃絶を訴える広島のメンバー

被爆体験をつなぎ、 核廃絶運動強化を!

全日程を通じて、日本政府の「核抑止論」肯定・「核兵器禁止条約」無視への怒り、核兵器廃絶への力は被爆者の証言であるが被爆者は平均年齢85才と高齢で、私たちが被爆の追体験をリアルに実感として掴み、伝え続けていこうと強調されました。

広島自治労連として「核兵器廃絶」運動の強化が求められています。



広島自治労連第34回定期大会・オンライン併用開催

- 2023年10月15日(日)13時〜17時
- アステールプラザ7階・国際会議室
- 内容:経過報告、予算・決算、運動方針案、秋闘方針案
- 各単組、補助組織から積極的な発言をお願いいたします。

2023人事院勧告・給与勧告のポイント

- (1)官民較差 3869円(0.96%)。
年収で約3.3%の給与改善
- (2)初任給引き上げ
高卒:約8%・12000円、大卒:約6%・11000円引き上げ
- (3)一時金引き上げ
年間0.10月分引上げ。再任用職員は年間0.05月分。
- (4)テレワークについて
テレワーク中心の働き方をする職員について光熱・水道費などの負担軽減のため、在宅勤務手当新設:月額3000円



給与制度のアップデート概要

●人材確保、個々の成長を通じた組織パフォーマンス向上、働き方やライフスタイルの多様化への対応について検討するとしているが、能力・成績主義を強化するのではなく、生計費原則による、誰もが安心して公務に専念できる給与制度を目指すべきである。

基調報告者 大宮勇雄さん

2 保育条件と保育実践との密接な関係

- クラスの人数が多いと、準備や説明、指示や個別対応などが必要
- 保育者がそういうことに追われると、子どもといっしょに活動を楽しむ余裕が奪われる
- 保育は、専門家である保育者が助け合っているもの

世界の共通認識は「1クラス15人 常時複数の保育者で保育」



日本の保育士の働き方は世界一過酷

7月29日から31日まで福島県郡山市磐梯熱海で「語りあおう、子どもの命と育ち」をテーマに、第55回全国保育団体合同研究集會が開催され、初日は会場参加1100人超、オンラインも含めて7000人に迫る参加者が集いました。

■日本は子ども30人に保育士1人、世界認識は1クラス15人で常時複数保育者

基調報告では全国保

育団体連絡会会長の宮勇雄さんが、日本の保育士は子ども30人に保育者1人という配置基準（5歳児、幼稚園も含めた平均値）だが、世界の共通認識は1クラス15人で常時複数保育者での保育であり、日本の保育士の働き方は世界で一番過酷であると指摘しました。

30日は分科会や講座に分かれ学び、交流しました。特別企画「ふくしま



● 単組の定期大会・定期総会を開催しました ●

7月8日、療育支援センターで、第51回定期大会を開催。今年度もハイブリッド方式で、65名が参加。執行委員長は、組合運動の妨げだった新型コロナウイルスの位置づけが、5月8日から「5類」に移行され、本格的なウィズコロナ社会となったため、感染に留意し、コロナ禍で開催できなかった組合の集會や行事が少しでも開催されることを期待したいと挨拶。各議案の他、青年部作成の組合加入用動画を披露、組織拡大に向け取り組み意識を高め、組織拡大を感じました。

広島県福祉事業団労組

7月23日、第111回定期大会をグリーンアリーナ中会議室にてハイブリッド形式で開催しました。各支部協議会からは、欠員状況や現業職の正規職員不採用、職員の高齢化問題、定年延長に向けての取り組み状況の報告され、「給食まつり」の告知がありました。

広島市職員労働組合

7月25日、市民交流プラザで第28回総会を開催し、財団職員の労働条件や青少年教育施設の現状などを情報共有しました。また今回は、奈良市の公民館の現状を知る機会を設け春日公民館の館長から奈良市の公民館が統廃合されようとしている状況などを聞き、参加者は、広島市の公民館も他人事ではない危機感を募らせる。今後は職員の団結して職場の環境改善など、一層努力していかねばならないと再認識を深めました。

広島市ひと・まち労組

8月8日、広島市労連室で第15回定期大会を開催しました。今年4月に地方自治法が改正され、勤労手当の支給が来年度からできるようになり、住居・扶養手当などは制度化されています。退職手当の支給も大きな課題で、正規との給与格差も大きく課題は山積みです。「同一労働同一賃金」を合言葉に取り組みを進めていくことを確認し大会を終り、その後、参加者の懇談を行いました。

広島市会計年度労組

広島自治労連 連続学習会①

温暖化と水環境



小野寺真一教授

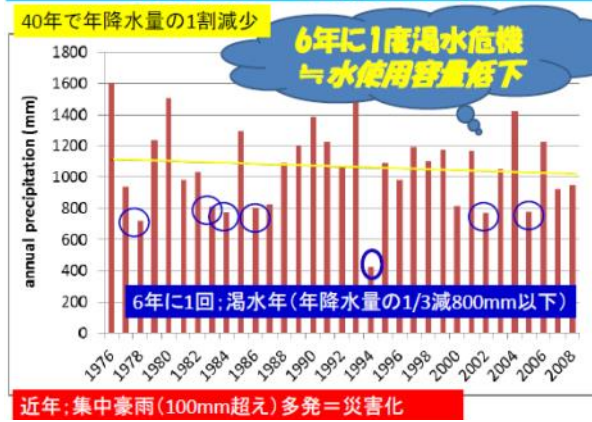
7月11日（火）、広島自治労連連続学習会の1回目が広島自治労連会議室をキー・オンライン併用で開催され、24名が参加しました。講師に広島大学大学院先進理工系科学研究科教授の小野寺真一さんを迎え、「温暖化と水環境」について学習しました。約1時間の講演で知識を深めた後、感想や質問などを通

講演の中では、私たちの生活が夜型になることで昼夜絶えずエネルギーが使われ、その供給のために化石燃料を燃やし、排出される二酸化炭素が「地球温暖化」に繋がっている現状があることを学びました。

また、近年注目されること多い豪雨災害については、降水量が増えているために被害が大きくなっていると思っていきましたが、実際のところそうではなく、瀬戸内地方は6年に1度は洪水の危機に陥っており、単に降水量の増加が災害に繋がっている



気候変動リスク：瀬戸内の現状



瀬戸内海は六年に一度、渇水の危機



7月11日（火）、広島自治労連連続学習会の1回目が広島自治労連会議室をキー・オンライン併用で開催され、24名が参加しました。講師に広島大学大学院先進理工系科学研究科教授の小野寺真一さんを迎え、「温暖化と水環境」について学習しました。約1時間の講演で知識を深めた後、感想や質問などを通

講演の中では、私たちの生活が夜型になることで昼夜絶えずエネルギーが使われ、その供給のために化石燃料を燃やし、排出される二酸化炭素が「地球温暖化」に繋がっている現状があることを学びました。

また、近年注目されること多い豪雨災害については、降水量が増えているために被害が大きくなっていると思っていきましたが、実際のところそうではなく、瀬戸内地方は6年に1度は洪水の危機に陥っており、単に降水量の増加が災害に繋がっている

単純に、降水量の増加が災害につながる訳ではない。普段わかったつもりになっていた身近な「水」の問題について、数多くのお話を聞くことができ、大変学びの多い学習会となり、2回目以降の開催にも期待しています。

絶賛販売中



広島市職労の平田和弘さん、広島市社会福祉事業団労組の鈴木秀穂さんの証言も掲載されています。
★通常価格1650円→組合員価格1200円（税込）！
★購入申し込みは広島自治労連へ！
電話 082-243-9240
email hjrouren@urban.ne.jp

● 広島自治労連秋の組織集會

- ・9月28日（木）18：45～20：30終了予定
- ・ロードビルからオンライン併用
- 「仲間を増やして、賃金上げ、人員増を勝ち取ろう」

● 自治体・関連職場で働く臨時・パート・嘱託・会計年度任用職員 2023学習総決起集會

- ・9月30日（土）18時～20時
- ・アステールプラザ4階大会議室A
- 「誰もが生活できる賃金へ」